

諸寄コース

古くから北前船の寄港地として栄え、数多くの文化人を輩出した諸寄。現在は漁業の町として松葉ガニ、ホタルイカ漁でにぎわっています。漁港付近には港町の家並みが当時の雰囲気を残し、海岸部にはマグマの岩脈や海食洞など自然の摂理が楽しめます。小高い城山園地からは大パノラマの絶景を望むことができます。名産焼き竹輪をおやつにどうぞ。

1 JR諸寄駅の古い駅舎の向かいに、山陰海岸ジオパーク散策モデルコース「浜坂・諸寄コース」の看板がある。まず、この看板でコースを確認して歩き出そう。諸寄はかつて風待ち湊として栄えた漁業の村でもあるが、多くの偉人(歌人・前田純孝、社会教育者・篠原無然、画家・谷角日沙春)を輩出しており、彼らにまつわる石碑を巡るのも面白い。スタートしてすぐ左手に飛騨聖人と呼ばれた篠原無然の記念碑がある。



- 2 JRの小さな鉄橋をくぐり直進し、二つ目の小さな交差点を左折すると左に簡易郵便局。その前に篠原無然の生誕地碑がある。
- 3 左手に進むと為世永神社の社務所があり、風待ち湊として栄えたころの船絵馬が奉納されている。
- 4 社務所を出て右折、つきあたりを右折して進むとグラウンドの奥に「諸寄基幹集落センター」〈前田純孝資料室〉がある。与謝野晶子に「東の啄木、西の純孝」と呼ばしめた前田純孝と与謝野鉄幹の歌碑がある。
- 5 資料室を出て右折、細い道を登り突きあたりを左折、まっすぐ行くと大栃川にあたる。
- 6 橋の手前を右折し、国道178号をわたり、トンネル手前を右折すると諸寄港になる。付近は、日本海航路が盛んだったころの家並みを残している。左手の石段を登ってみよう。町を見下ろす高台に、海の神様をまつる「為世永神社」がある。境内の玉垣には旧国名と寄進した船主の名が刻まれている。
- 7 石段を下り、港に沿って進むと小船が並ぶ港の西端に到着。小山(日和山)の上には灯台があり、その下に広がる岩場には、かつて北前船を係留した棒杭の穴が幾つも残っている。時間があれば、棒杭の穴を探してみよう。
- 8 Uターンして、対岸の塩谷浜をめざす。国道178号を東進すると大型の底引き網漁船が係留される漁港に続き、雪の白浜と呼ばれた砂浜が見えてくる。漁港の東岸、砂浜の手前に漁港公衆トイレがあるが、終点までトイレがないので、ここを利用しよう。また、名物の焼きちくわの製造販売の店があるので、お腹がすいたら1本おやつに召し上げられ(ショートコースは、ここからゴールの諸寄駅へ)。砂浜を歩くのもおもしろい。波打ち際で貝殻を探すのもひとつの楽しみ。信号のある交差点にある小公園に前田純孝の歌碑がある。
- 9 信号を右折し、道なりに左に進めば、国道の下をくぐる道があり、波の寄せる海岸沿いのくねくね道を進めば、塩谷浜だ。
- 10 B&G海洋センター前の遊歩道を進めば、右手に小さな洞窟・海食洞だ。波の力でえぐられた洞窟は、入口より内部の方が広く、大人が数人入ることができる。真っ暗なので頭上の落石に注意が必要だ。
- 11 いったん178号の信号まで戻り、さらに坂道を登りきると城山園地の入口だ。つづら折りの舗装道路を登ると城山園地展望台、諸寄と西に海金剛の絶景が開ける。東屋やベンチもあり、絶好の写真撮影ポイント。
- 12 復路は、往路を戻り、焼き竹輪製造所の手前を左折し、直進すると駅に到着する。



- 難易度：★★☆
- トイレ：JR諸寄駅、諸寄漁港公衆トイレ、基幹集落センター(開館時のみ)
- アクセス：・電車：JR諸寄駅下車
・車：JR諸寄駅駐車場
- 問合せ：新温泉町役場 商工観光課
TEL:0796-82-5625

距離(約)

6 km